［　最上川地区と関わる主な要素　　：最上川地区外に位置する要素　　：無形の要素］

位置	内　容	説　明
用	舟道の跡	元禄年間の西村久左衛門による長崎から正部にかけての開削で形成されたとみられる。
	用　橋	昭和 53 年竣工、竣工後用の渡船が廃止された。
	用渡船場跡	古くから用いられ、嘉永６年に伏熊・深沢等７カ村で建造費を分担して舟を建造している。山辺から大谷・大沼浮島への重要な交通路であった。
	湯沢	最上川を遡航する舟が着く船所、足場が整備されていた。
	明神ハゲ 厳島神社	最上川との比高 150 m。サイカチの瀬を過ぎると舟から見える、江戸時代の名所。断崖の頂上に厳島神社があり、最上川交通の安全を祈願する舟人の信仰があった。
	象頭山石碑	川で働く人は金毘羅信仰が厚く、二渡堂に象頭山の石碑がある（現在の公民館）。
深 沢	深沢渡船場跡	安政年間には、深沢から渡船で対岸中沢へ渡って五百川街道を北上して左沢へ至る道があった。
深沢・富 沢	大江大橋	昭和 52 年竣工、竣工後深沢の渡船が廃止された。
	舟道の跡	（用の舟道の跡同様）
藤 田	左　巻	舟運の難所、30 mの比高差を持つ急崖があり、城見坂にぶつかった最上川が東に流路を変えて激流が渦巻き岩盤がみえる。
	大明神山	水面から約 40 mの比高差を持つ。遠くからも望見でき、曲流が著しい舟運の難所の目印であった。山頂に稲荷大明神が祀られ、水上安全の信仰があり左沢の舟方衆も参詣した。
	大明神淵 楢木淵	大明神山麓が大明神淵、その下流が楢木淵。曲流して流れが複雑で渇水期には岩盤が顔を出す難所であった。
	観光ヤナ	大江町域の最上川では、用や藤田などに簗があり、鮎などの漁獲があった。現在は「観光ヤナ」として大江ふるさと観光株式会社が経営する簗で鮎漁がおこなわれている。
	塩の巻 （塩の瀬）	楢木淵を越えて最上川が北流する場所。川舟の着く舟場、小見の米を牛前河岸に運んでいた。
左 沢	米沢舟屋敷跡	元禄年間の五百川峡谷開削によって、峡谷出口の左沢に米沢舟屋敷が置かれた。
	月布川合流点 ～川端付近	左沢領の蔵米は月布川に架かる川口橋付近で積み降ろし、商人荷物は舟屋敷のすぐ下手、川端で積み降ろされたと伝えられる。付近の最上川は緩やかな流れに恵まれており、月布川との合流点付近など、かなり広い範囲で荷物の積み降ろしや船の繋留が行われたものとみられる。
	百目木甚句	「ハァー　あてらざわ 御日市帰りに百目木の茶屋で 一ぱい飲んで眺むる最上川 向こうに見えるは何じゃいな 上杉さんのお米蔵 どんと積んで下すは酒田船 ハァー　あてらざわ お米山と積んで帆を巻きあげて 今日も下るぞ酒田船 いつごろお帰り　風次第 荷物は何々松前の にしん　こんぶに　たら　かすべ 京のゆうぜん　博多帯 おみやげ話は　たんとたんと」
	百目木茶屋唄	「茶屋は百目木　二階の景色 前を流るる最上川 夏は清水に　てんを浮かして 見事に咲かせたかきつばた 上り下りの船のかずかず 夕暮涼しき中河原 梁にござれやどんどん 鱒でも鯉でもとれ次第 ちょいとあがらんせ」

「明神ハゲ」と用橋（用）

「象頭山」石碑（用）

舟道の跡（深沢）

「左巻」付近（藤田）

観光ヤナと楢木淵・大明神山（藤田）

「米沢舟屋敷」跡から月布川合流点

［　最上川地区と関わる主な要素　　：最上川地区外に位置する要素　　：無形の要素］

位置	内　容	説　明
左沢	桜町渡船場跡	最上橋架橋まで渡船場があった。
	旧最上橋	明治 16 年に架けられた初代最上橋（木橋）から 4 代目の二連アーチのコンクリート橋。昭和 16 年竣工。
	柏　瀞	近代左沢の「名勝」とされる。対岸中郷の地層が柏の葉のように川に映った眺め。
	百目木の簗跡 百目木茶屋跡	最上家親の時代、左沢に簗がつくられたといわれる。安政 5 年 (1858) には百目木に 2 つ並んだ簗の持ち主間で訴訟が起きた。簗場は長い間、左沢の名所の 1 つで、傍の百目木茶屋とともに客を呼び、明治 27、8 年頃、斎藤茂吉ら一行も夕食に出た 3 匹の鮎に舌づつみを打った。現在は簗跡が岩盤に残る。
	桜　瀬	舟運の難所、中洲中川原の南側。
	大瀧山不動尊（波切不動）	舟運安全祈願の信仰があった。宝剣額が複数奉納されているが、明治 34 年宝剣額を奉納した沢芳造家も船乗りだったという。
	巨海院金毘羅堂	舟運安全祈願の信仰があった。文政 7 年（1824）に左沢町人によって奉納された金毘羅信仰をあらわす「象頭山」の文字が刻まれた手水鉢がある。明治 19 年、船持ち菊地清治が巨海院金比羅堂に「小鵜飼船押絵絵馬」を奉納。
	最上川舟唄	左沢は「最上川舟唄発祥の地」といわれる。元々最上川沿いには多くの最上川舟唄があったが、山形県を代表する民謡「最上川舟唄」は、左沢出身の後藤岩太郎が昭和の初めに編曲したものである。大江町では最上川舟唄保存会により「正調最上川舟唄」が受け継がれ、毎年全国大会が開かれている。

大瀧山不動尊（波切不動堂）

小鵜飼船押絵絵馬（巨海院金毘羅堂奉納）

最上川舟唄保存会

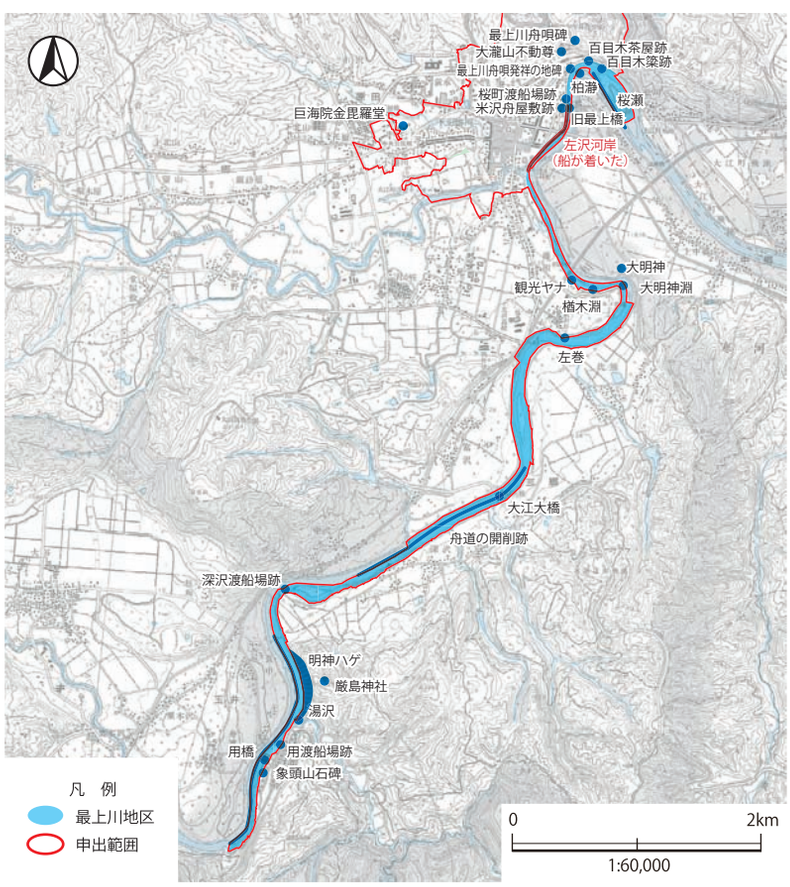

図４　最上川地区